

教科等の授業改善点（平成18年度）

| 教科等 | 改善点 | 教科等 | 改善点 |
|-----|--|-------|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取りが弱いので、小テストなどを継続して行い、語彙力をつける。また、単元ごとに漢字練習プリントを用意し、国語辞典を使って調べ、熟語を集めたり、短文作りをする取り組みを引き続き行う。 「話す、聞く力」をつけるための指導を工夫する。 「読む能力」を高めるために、読むときは重要な語句や文章に傍線をつけさせたりする。 文章を読み取り、表現することが苦手な生徒が多いので、引き続き読書指導に力を入れる。また、ワークシートを工夫して、文章を細やかに読めるように指導する。 敬語を適切に使えていないので、学校全体及び授業内での不断の指導を行う。 | 美術 | <ul style="list-style-type: none"> 授業時数が少ないので、生徒に作業するイメージを伝えるための美術の資料（なるべく作品が偏らないように配慮する）を増やす。 作業手順の説明は、耳からだけでは伝わりにくいことが多いので、生徒の理解を容易にするためプリントを作成し、作業が円滑に進むようにする。 作品が完成したら作業後にクラス単位で「鑑賞会」を行う機会を増やす。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 地理的分野では基本的知識や資料を読みとる力がやや弱く、歴史的分野では文化面、近代史では欧米の流れや動きが他の項目に比べて十分に理解できていないので、夏季休業や放課後を利用して補充学習を行う。 各単元と合わせて毎回の授業のねらいを明確にし、小テストやプリントでの確認などを取り入れて、基礎基本の定着を図る。 新聞を活用し、常に今の自分の生活、現代社会と関連させて考えられるような発問、課題設定を工夫する。 | 技術・家庭 | <ul style="list-style-type: none"> 授業ごとの評価をさらに細かく行い、信頼される評価評定をめざす。そのために計画的に課題を設定する。 授業の始めに「きょうの授業の目標」を黒板に書く。学年や授業内容によって授業の進め方が違うが、生徒の発言、動きを大切に進めていく。 作業学習の時は個別指導をきめ細かく行う。 |
| 数学 | <ul style="list-style-type: none"> 少人数授業の特性を生かし、3年生は週3時間すべて、2年生でも週1時間TT授業を行うことで、一人一人にきめ細かく指導する。 定期テスト前に数学科教員が互いに協力し、学習に遅れた生徒を対象に補充指導を行う。 単元末テストを実施し、各自の不得意な点をその都度理解させる。 図形の表現処理の力が弱いので、バランス良く各単元を積み重ね、練習する機会を増やす。 | 保健体育 | <ul style="list-style-type: none"> 一斉指導とグループ指導（個別指導）を適宜行う。 「学習カード」などを活用して、各個人の目標や自己評価をさせたり、適切な指導をしたり、習熟度を把握する。また、評価評定の資料として有効活用する。 実技の授業の中でルールややり方などを指導し、単元終了後に学習内容確認の小テストを実施する。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の技能・表現の力が不十分なので、身近な教材を活用した観察や実験を行うことにより、生徒の興味関心をひきだし、学習意欲を高める。実技テストで現状を把握し、対応を図ると共に、レポート作成の要点を指示し、レポートに関する評価も工夫する。また、計画的に器具の補充を図る。 自主課題を定期的実施し、基礎基本の確実な定着を図る。 視聴覚教材やシミュレーションソフトにより、再現が難しい現象の理解を図る。 課題学習を半期に1回実施し、レポートにまとめさせる。 レポート、ワークなどを小単元ごとに実施する。 | 外国語 | <ul style="list-style-type: none"> 新出単語、新出文法事項の導入や定着の際に、ペアワークやワークシートを使った言語活動を行い、生徒の興味、関心を引き出しながら効果的に指導を行うよう工夫する。 長期休業や放課後を利用して、学習内容の定着が不十分な生徒を中心に勉強会を行う。 授業で学習したことを効果的に習得するために、適切なワークシートやワークブックなどの家庭学習を毎回出す。 家庭学習の中や授業内での生徒のつまずきが何であるのか教員が発見できるように、提出物を丁寧にチェックし、また授業内では「書く」、声に出して「読む」、「話す」活動を多く取り入れ、アドバイスしやすい授業づくりを常に心がける。 知識・理解が他の項目よりやや弱いのでパターンプラクティスを増やし、応用力をつけ、自己表現力に結びつける指導を行う。 |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 美しい声、正しい発声をするために基礎的な訓練を増やす。 プリント、ワークを使い、音楽理論を理解させる。 CD、LDなどでプロの演奏を多く聴かせ、音楽全般に興味をもたせる。 | 総合 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒、学校、地域などの実態に即した横断的、総合的な「学び方、ものの考え方」の探求を実施する。 「生きる力を育み、自己実現をめざす」という学校全体の大テーマに沿って、地域・家庭と連携しながら、1学年「共生・タウンスタディ」、2学年「自分探し・地域との関わり」、3学年「自分探し・歴史文化にふれる」というテーマに学年ごとに組織的に取り組む。 活動を通して自主性や創造性を伸ばし、責任を持って取り組む姿勢や協調して活動する資質を育てる。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育を推進するために「特別支援教育校内委員会」をより充実させる。これは、一人一人の教育のニーズに応えた適切な教育的支援を行うためである。 指導と評価の一体化を図り、学習目標に到達していない生徒に対してのきめ細かい指導を継続して行い、成就感や達成感を味わわせる。補充・補習を計画的に行う。 選択教科は総合的な学習の時間との関連を図りつつ可能な限り全教科で開設し、コース数を拡大するとともに指導内容の充実を期す。さらに、基礎学力の定着の上に課題学習や補充的な学習及び発展的な学習が積極的に展開できるようにする。 国語科と連携し読書指導を充実させ、心の世界を広げ、学ぶ意味と目標を把握させる。 | | |